

# **Elysium License Server**

## **クイックスタートガイド**

2026年 4 月

株式会社エリジオン

# 目次

1. はじめに	1
2. 導入と設定	2
2.1. 動作環境	2
2.2. 導入手順	2
2.3. アップデート手順	7
2.4. 起動状況の確認	8
3. 管理インターフェイスの利用方法	9
3.1. ライセンスの登録	9
3.2. ライセンス使用状況の確認	11
4. ライセンス持ち出し機能	13
4.1. ライセンスの持ち出し手順	13
4.2. 持ち出したライセンスのクリーンアップ	15
5. ライセンス事前割り当て機能	16
5.1. 概要	16
5.2. 事前準備	16
5.2.1. オプションファイルの作成	17
5.2.2. グループの定義	17
5.2.3. プロジェクトの定義	18
5.3. 設定手順	19
6. ログ出力機能	22
6.1. 概要	22
6.2. ログの出力先を変更するための手順	22
6.3. ログのロールオーバー	23
6.3.1. 動作の説明	23
6.3.2. 設定手順	23
6.4. ログの内容	24
7. トラブルシューティング	26
7.1. 管理インターフェイスにアクセスできない場合	26
7.2. 管理インターフェイスにはアクセスできるものの [Concurrent] ページにライセンスの一覧が表示されない場合	27
7.3. 管理インターフェイスの [Concurrent] ページにライセンスの一覧が表示されているものの、実行したい処理に必要なライ	

センスが表示されていない場合 .....	28
7.4. [Concurrent]	
ページに必要なライセンスが表示されているにもかかわらずライセンスを使用でき ない場合 .....	28
7.5. [Concurrent] ページに表示されている内容に問題がない場合 .....	29
8. FAQ .....	31

# 1. はじめに

エリジオン製品のライセンスは、Elysium License Server によりライセンス管理されます。Elysium License Server は Revenera 社製の FlexNet Publisher を用いて実装されています。

本書では Elysium License Server を導入し、エリジオンが発行したライセンスを登録するまでの手順を説明しています。



Revenera および FlexNet は、Revenera 社の登録商標です。

## ライセンス設定動画について

本マニュアルに記載している内容については、以下のサイトで動画も公開しています。  
本マニュアルと併せてご参照ください。

<https://www.elysium-global.com/ja/support/license/els-setup-movie/>

## 2. 導入と設定

### 2.1. 動作環境

CPU	下記 OS が稼働可能な CPU
サポート OS	Windows 11 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025
メモリー	4GB 以上
ディスク装置	500MB 以上の空き容量

### 2.2. 導入手順

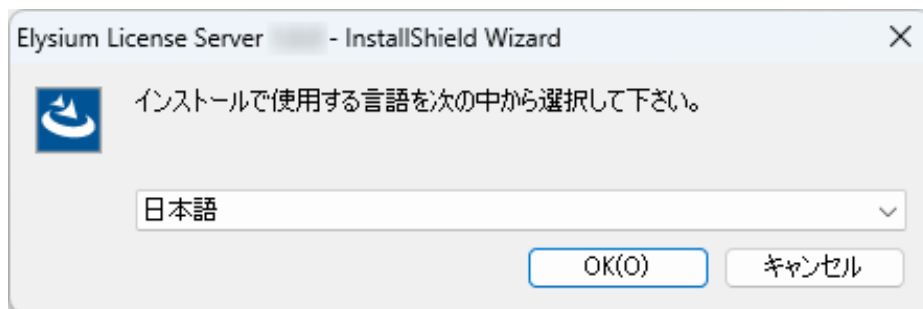


- インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。
- Elysium License Server を導入したコンピューター を以降は "ライセンスサーバーコンピューター" と記載します。

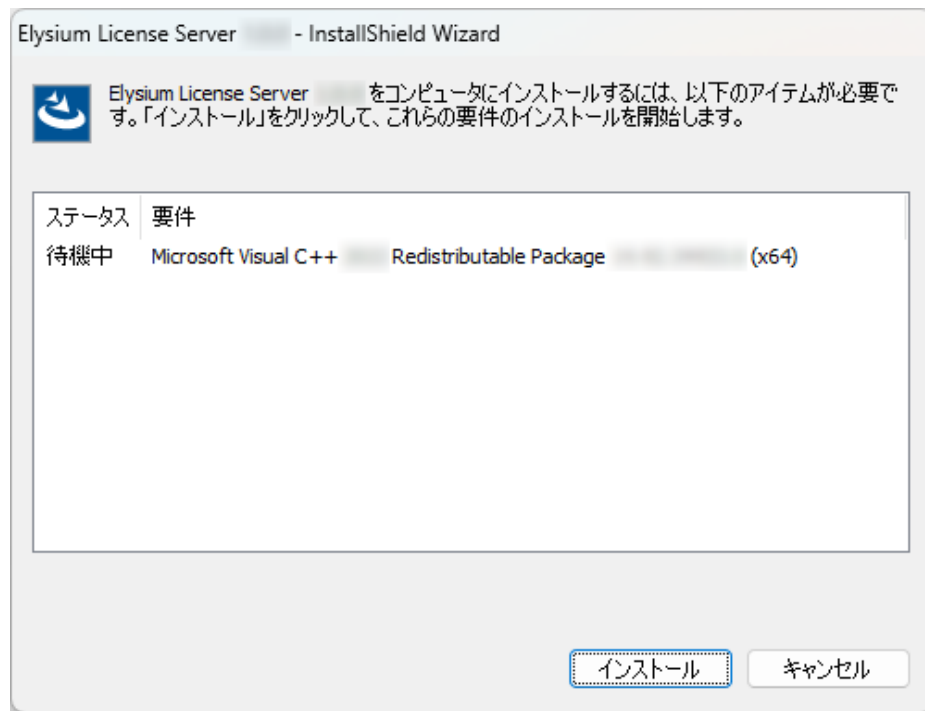
1. ダウンロードしたインストーラーパッケージ内の Elysium\_License\_Server\_1\_4\_0.exe を実行します。インストーラーのパスは以下の通りです。

<ライセンスサーバーインストーラーパッケージ>\server\Elysium\_License\_Server\_1\_4\_0.exe

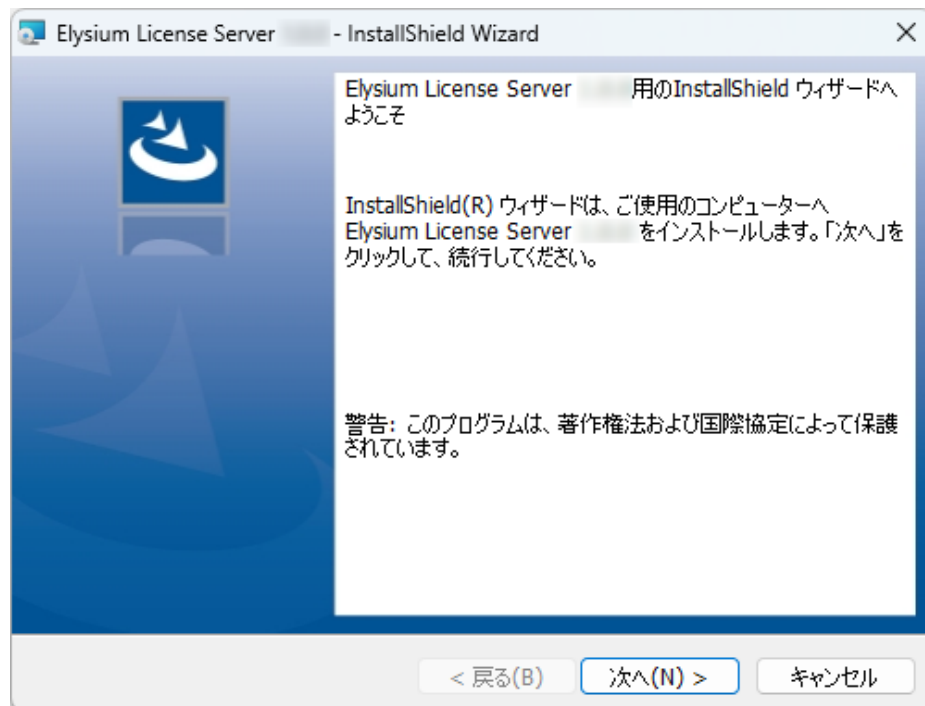
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



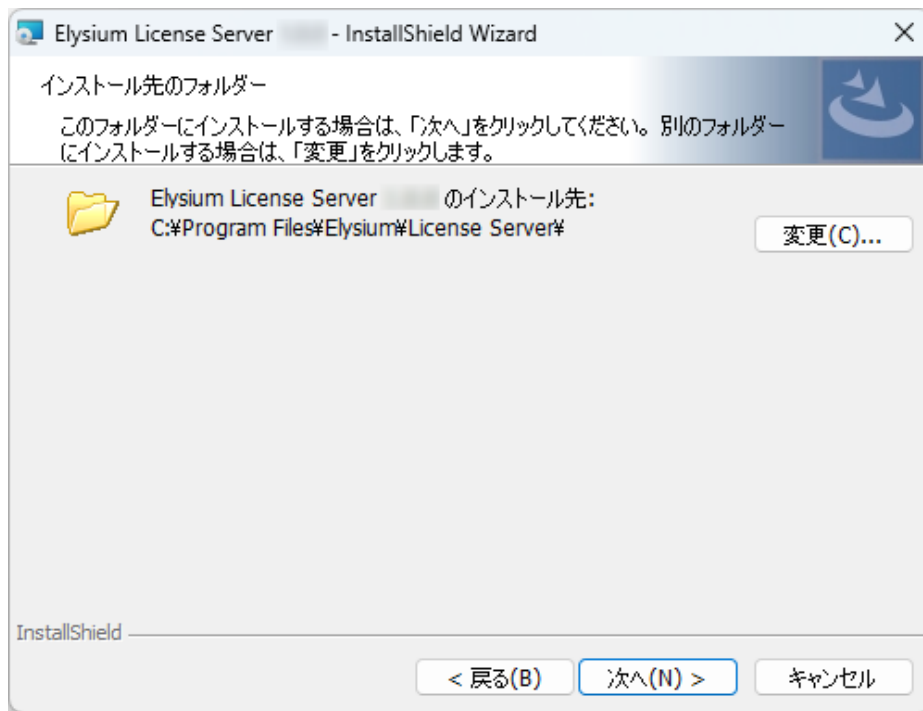
3. 以下のダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックして必要なアイテムをインストールします。必要なアイテムが既にインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。



4. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



5. インストール先のフォルダーを指定するためのダイアログが表示されます。インストール先をデフォルトから変更する場合は、[変更] をクリックして変更先のフォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。

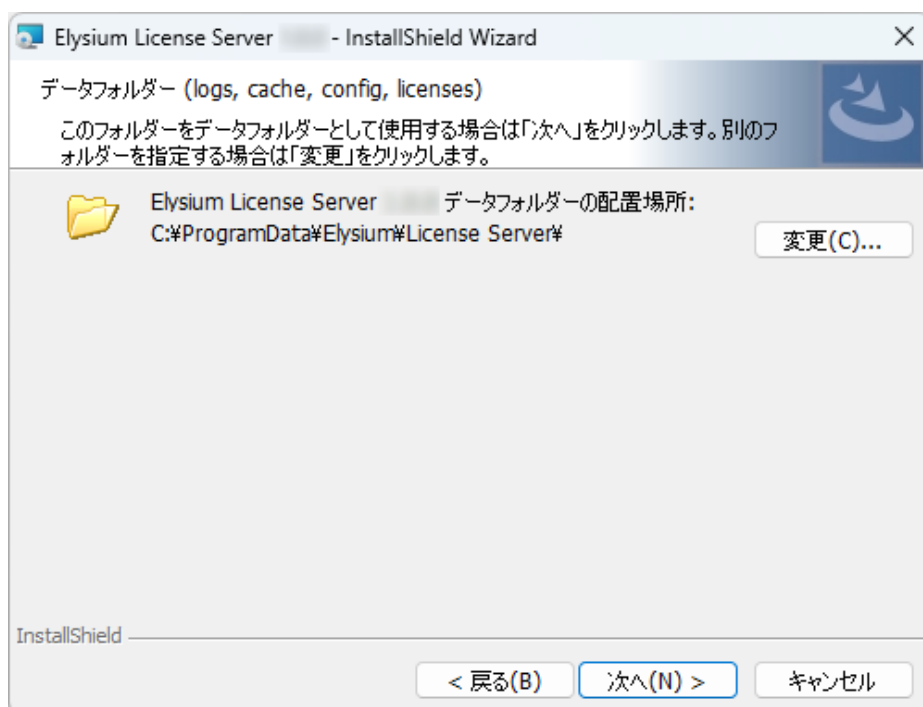


ログのロールオーバーを利用する場合は、Elysium License Server サービスの実行ユーザーに書き込み権限のあるフォルダーをインストール先として指定してください。サービス実行ユーザーが書き込み権限を持たないフォルダーにインストールした場合、ログのロールオーバーが動作しません。



Elysium License Server のインストール先に指定したフォルダーを、以降は"ライセンスサーバーインストールフォルダー"と記載します。

6. データフォルダーの配置場所を指定するためのダイアログが表示されます。配置場所をデフォルトから変更する場合には、[変更] をクリックして変更先のフォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。





ドイツ語、フランス語、およびその他一部のヨーロッパ言語の OS をご利用の場合、データフォルダーの配置場所を ProgramData 以外の場所に変更してください。ProgramData 配下を指定してインストールを行うと、ライセンスサーバーを正常に利用できない可能性があります。

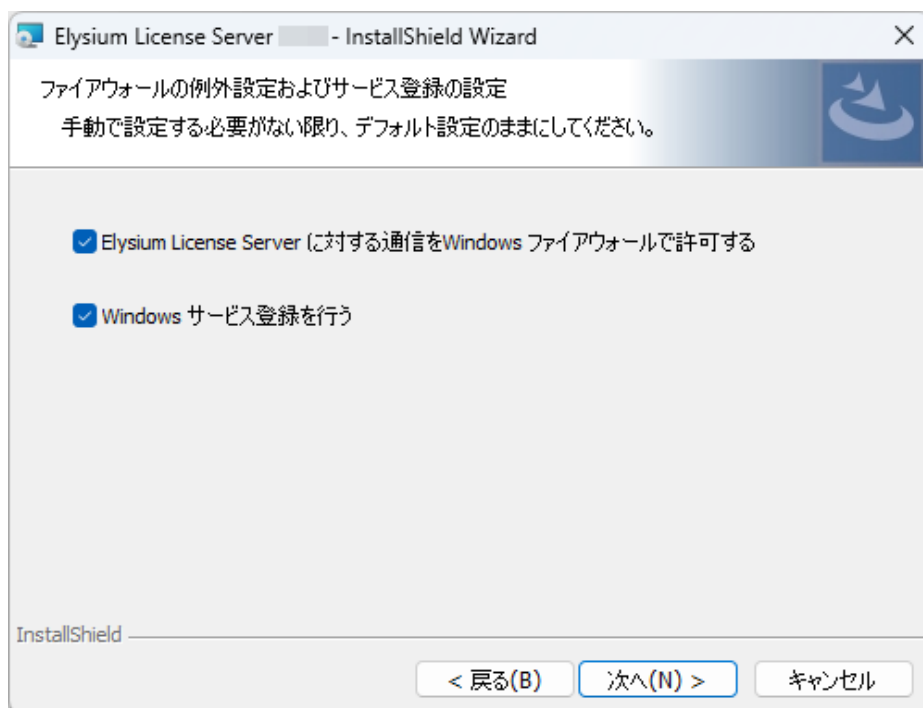


ライセンスサーバーデータフォルダーには以下の情報が保存されます。

- 設定ファイル
- ログファイル
- キャッシュ
- 登録したライセンスファイル

Elysium License Server のデータフォルダーに指定したフォルダーを、以降は "ライセンスサーバーデータフォルダー" と記載します。

7. 以下のダイアログが表示されます。チェックボックスをオンにしたまま [次へ] をクリックします。



Windows ファイアウォール以外のファイアウォールが当該コンピューター上で動作している場合には、それらのファイアウォールで通信を許可するための設定を行ってください。Elysium License Server を使用する上で許可する必要があるポートは以下の 3 種類です。



- Elysium License Server の管理インターフェイスにアクセスする際に利用するポート
- ライセンス認証を行う際に利用するポート
- ベンダーデーモンにアクセスする際に利用するポート

これらのポートのポート番号については、[管理インターフェイス](#)から確認することができます。ライセンスサーバーコンピューター上でブラウザーを起動して管理インターフェイスを開き、それぞれのポートのポート番号を確認してください。

8. ポート番号を指定するためのダイアログが表示されます。デフォルトから変更する場合は、ライセンスサーバーコンピューター上の使用可能なポート番号を指定します。指定が完了したら、[次へ]をクリックします。

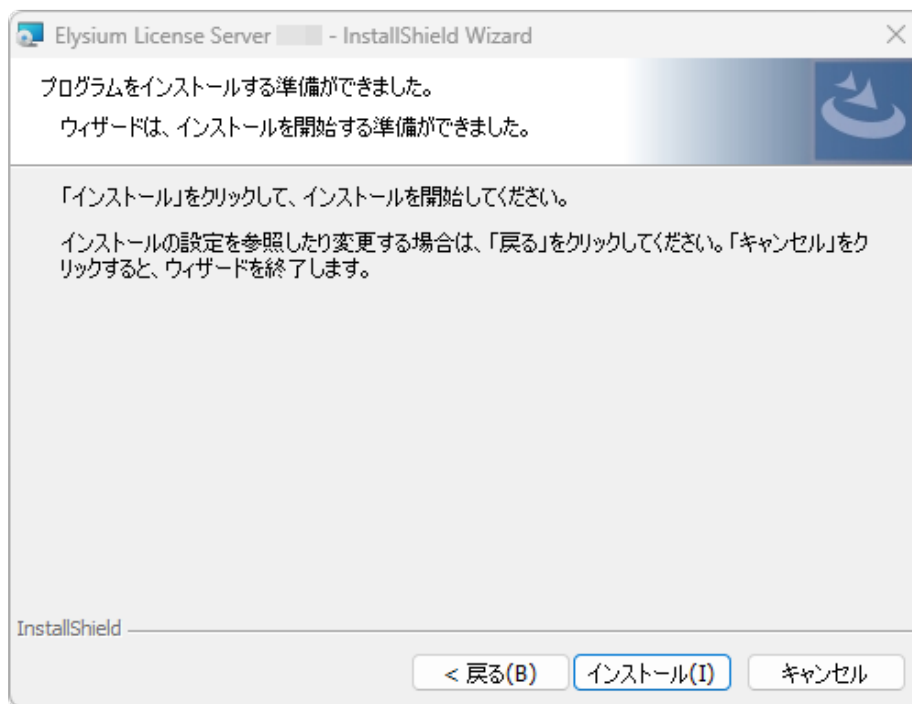


ポート番号には、他で使用されていない番号を指定してください。既に使用中のポート番号をライセンスサーバー管理インターフェイスのポート番号に指定すると、Elysium License Server が正しく動作しない場合があります。

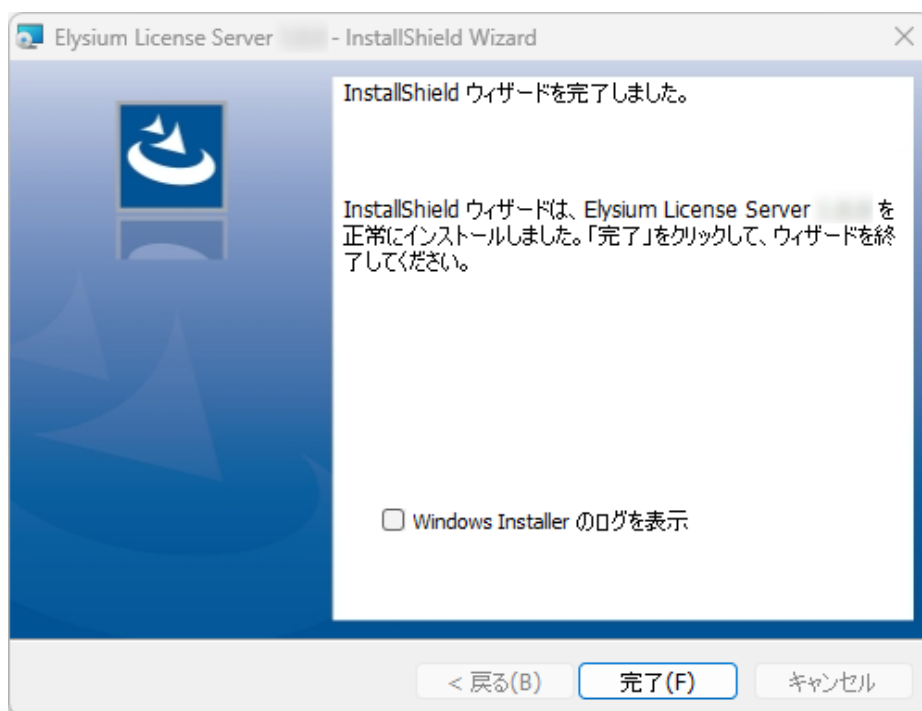


"Elysium License Server" のポート番号に 0 を指定すると、27000-27009 の範囲で番号順に未使用のポートを探し、最初に見つかったポートを使用します。そのため、多くの場合 27000 が使用されます。

9. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



10. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストールを終了します。



ユーザーがエリジオン製品を利用するには、Elysium License Server のポート番号とライセンスサーバーコンピュータのコンピュータ名が必要です。これらの情報は 3.1, “[ライセンスの登録](#)” の手順 8 で確認できます。

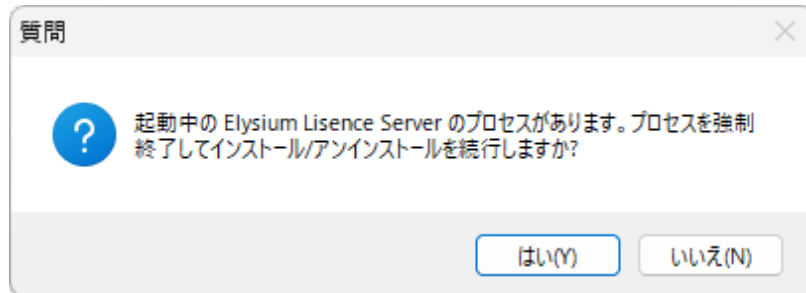
## 2.3. アップデート手順

Elysium License Server をアップデートする場合は、2.2, “[導入手順](#)” と同じ手順を実行してください

い。手順 9 で [インストール] をクリックすると、旧バージョンは自動的にアンインストールされます。




- 手順 6 で旧バージョンと同じデータフォルダーを指定する場合は、万一のトラブルに備えて、事前にデータフォルダーのバックアップを保存することを推奨します。
- 手順 9 で [インストール] をクリックした後、以下のダイアログが表示される場合があります。[はい] をクリックしてインストールを続行してください。



## 2.4. 起動状況の確認

以下の手順で Elysium License Server の起動状況を確認することができます。

1. Elysium License Server をインストールしたコンピュータで、Windows スタートメニューを右クリックして、[コンピューターの管理] をクリックします。
2. [コンピューターの管理] ウィンドウが開いたら、ウィンドウ左側の [サービスとアプリケーション] - [サービス] をクリックします。
3. "Elysium License Server" という名前のサービスの状態を確認します。"実行中" になっている場合、Elysium License Server は起動しています。

名前	説明	状態	スタートアップの種類	ログイン
 Elysium License Server	This s...	実行中	自動 (遅延開始)	Local S...



サービス "Elysium License Server" を開始してから "実行中" になるまでに時間がかかる場合があります。

### 3. 管理インターフェイスの利用方法

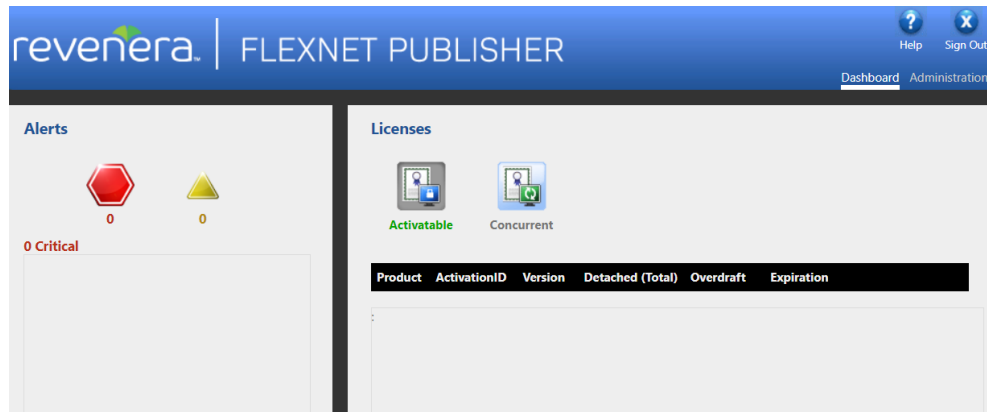
Elysium License Server の管理インターフェイス (以降は "管理インターフェイス" と記載します) は、Elysium License Server の管理を行うことができる Web ベースのインターフェイスです。管理者は管理インターフェイスを使用することで、Elysium License Server の設定の変更、ライセンス使用状況の確認、ライセンスに関するトラブルシューティングなどを行うことが可能です。

1. Web ブラウザーから管理インターフェイスにアクセスします。  
管理インターフェイスの URL は以下の通りです。

`http://<ライセンスサーバーコンピューター名>:<ポート番号>/`

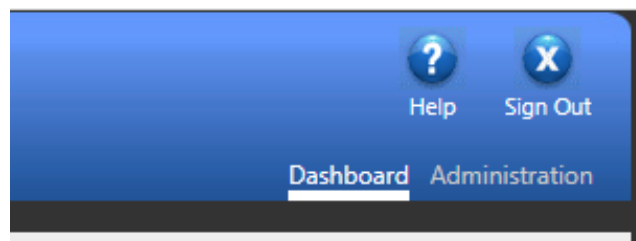
例: <http://Computer1:8090/>

アクセスに成功すると以下の画面が表示されます。



画面右上に切り替え可能なタブが 2 つあります。

- [Dashboard] タブの [Concurrent] からライセンス状況の確認ができます。[Dashboard] タブへのアクセスに認証は不要です。
- [Administration] タブからは Elysium License Server の設定を変更することができます。[Administration] タブへアクセスするには管理者としてログインする必要があります。



#### 3.1. ライセンスの登録

この節では Elysium License Server にライセンスを登録する手順について説明します。

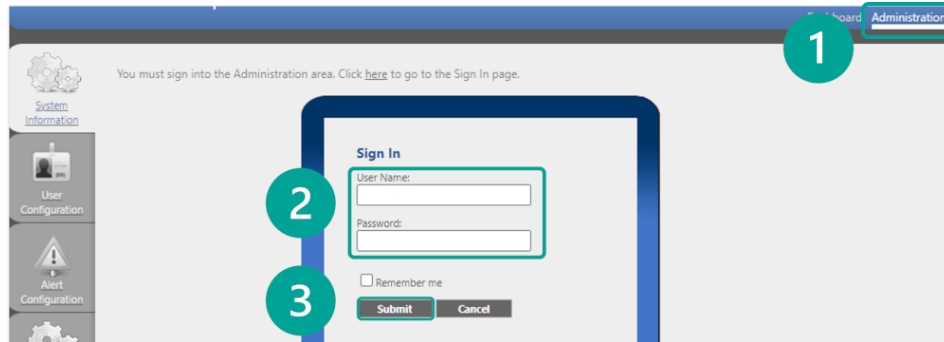


ライセンスの登録を行うには、Elysium License Server に管理者としてログインす

る必要があります。

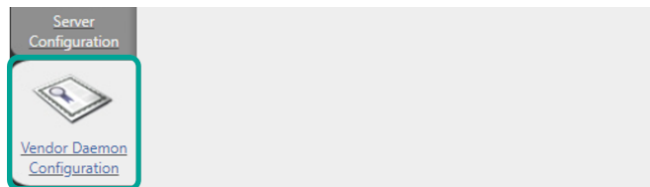
1. Elysium License Server に管理者としてログインします。

- a. 画面右上の [Administration] タブから、"User Name" と "Password" を入力し、[Submit] をクリックします。



- 初回インストール時は、ユーザー名とパスワードはどちらも "admin" に設定されています。
- ログイン後、パスワードの変更を求められます。元のパスワード "admin" と新しいパスワードを入力し、[Save] をクリックしてください。新しいパスワードは 8 文字以上に設定する必要があります。
- パスワード変更後は、再度ログインする必要があります。

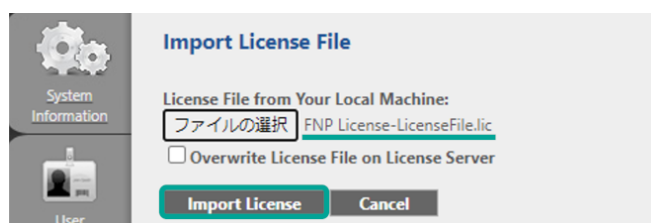
2. [Vendor Daemon Configuration] ページを開きます。



3. [Import License] をクリックします。



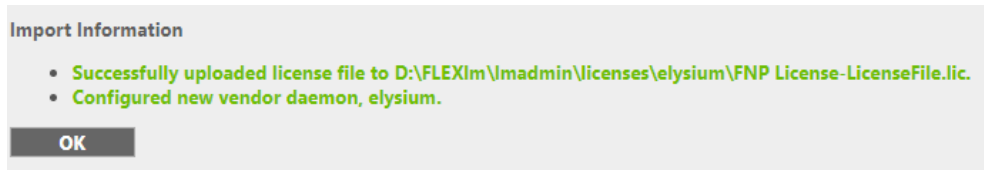
4. [ファイルの選択] をクリックし、開いたウィンドウでライセンスファイル \*.lic を選択した上で [開く] をクリックします。
5. [ファイルの選択] の右側に目的のライセンスファイルの名前が表示されたことを確認し、[Import License] をクリックします。





同名のライセンスを再登録する場合は、"Overwrite License File on License Server" にチェックを入れてください。

6. 登録に成功した場合は、以下のメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



7. ベンダーデーモン "elysium" の "Status" が "Up" になっていることを確認します。

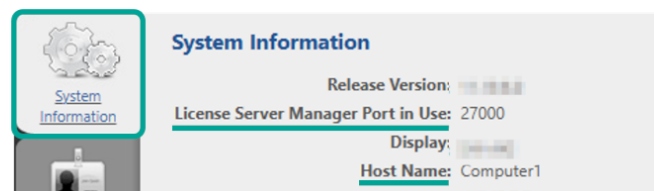
Name ▲	Status
elysium	Up

この時点で "Status" が "Down" と表示されている場合、hostid が一致していない可能性があります。次の点を確認してください。



- ・ライセンスファイル 2 行目に含まれている hostid とライセンスサーバーコンピュータの hostid が一致していること
- ・ライセンスサーバーコンピュータがライセンス申請時に hostid を取得したコンピュータと同一であること

8. [System Information] ページを開き、"License Server Manager Port in Use" と "Host Name" の値を確認します。これらの値は、エリジオン製品の参照するライセンスサーバーを指定する際に必要となります。エリジオン製品をセットアップする方に、これらの値を共有してください。



9. 既にライセンスが登録されているライセンスサーバーに対してライセンスを追加で登録した場合には、"Elysium License Server" サービスを再起動します。

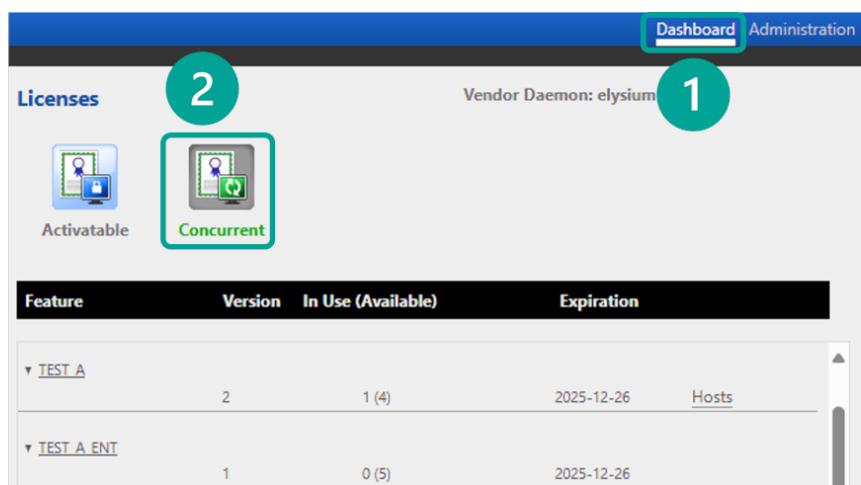


"Elysium License Server" サービスを再起動するまで、追加で登録したライセンスは有効になりません。

## 3.2. ライセンス使用状況の確認

この節では、登録されているライセンスの概要を確認する方法を説明します。

1. 管理インターフェイスにアクセスし、[Dashboard] タブを選択します。
2. [Concurrent] をクリックします。この画面から、登録されているライセンスの概要が確認できます。

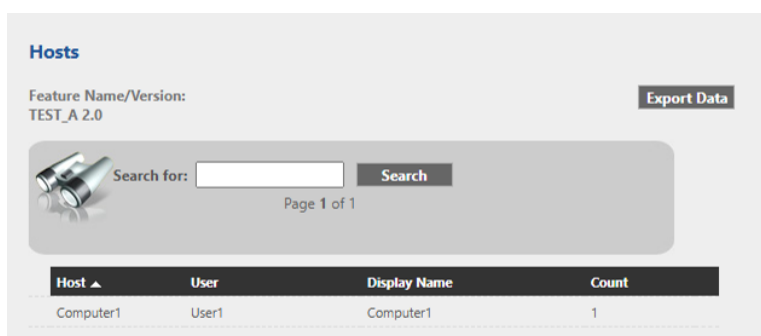


列名	説明
<b>Feature</b>	ライセンスのフィーチャー名
<b>Version</b>	ライセンスのバージョン
<b>In Use (Available)</b>	使用中のライセンス数 括弧内の数字は登録されているライセンスの総数
<b>Expiration</b>	ライセンスの有効期限



持ち出し機能や事前割り当て機能を使用している場合、それらのライセンスを実際に使用しているかどうかに関わらず、"In Use" としてカウントされます。

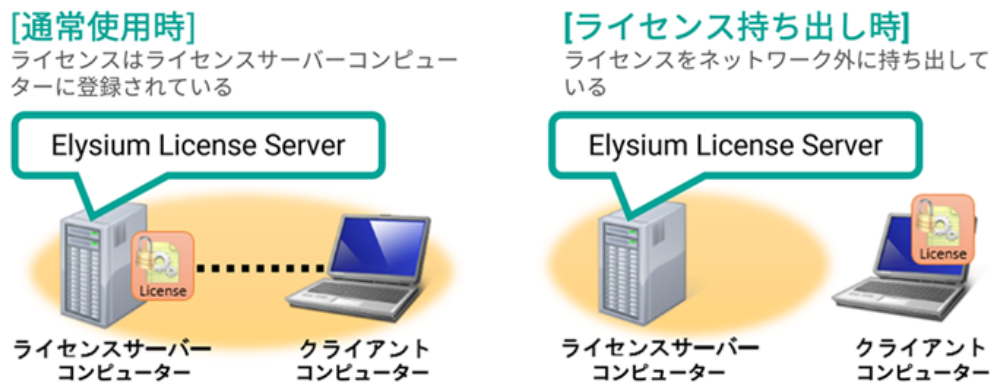
- この画面に表示されているライセンスの内容に問題がある場合は、購入元にお問い合わせください。
- ライセンスを使用中の場合、使用中のライセンスフィーチャーの行の右端に [Hosts] が表示されます。[Hosts] をクリックすることで開くポップアップウィンドウから、誰がライセンスを使用しているかを確認できます。



以上で Elysium License Server の利用準備およびライセンスの登録作業は終了です。この段階で、Elysium License Server でライセンス管理されたエリジオン製品を利用できるようになります。

## 4. ライセンス持ち出し機能

ライセンス持ち出し機能は、Elysium License Server に登録されたライセンスを一時的に持ち出し、ネットワーク外でソフトウェアを利用可能にする機能です。この機能は、ライセンスサーバーコンピュータと通信できない社外やリモート環境での作業が必要なユーザーに役立ちます。持ち出したライセンスは、事前に設定した期間内に限り有効です。有効期間が終了すると、ライセンスは自動的に Elysium License Server に返却されます。



### 4.1. ライセンスの持ち出し手順

この節ではソフトウェアを利用するコンピュータ (以降は "クライアントコンピュータ" と記載します) でライセンスを持ち出す手順を説明します。



ライセンスの持ち出しが完了するまで、ライセンスサーバーコンピュータとクライアントコンピュータが同じネットワークに接続されている必要があります。

Service/License File | System Settings | Utilities | Start/Stop/Reread | Server Status | Server Diags | Con | **Borrowing**

To borrow licenses (with applications and licenses that support borrowing):  
 (1) Enter the date (and optionally time) you want licenses to be returned.  
 (2) Select applications you want to borrow from on the network.  
 (3) Click Borrow.  
 Borrowed licenses are on the date and time specified, or end-of-day, if no time is specified.

**1** Borrowing

**2** Set Borrow Expiration

Vendor Name: Elysium

Return Date: 30-jan-2025 dd-mmm-yyyy Return Time: 15:00 hh:mm

#### 4 持ち出し対象のライセンスを使用

List Currently Borrowed Features Don't Borrow Anymore Today

**5** Borrowed Licenses Early

Display Name (optional) **6** Feature Name:

No FLEXlm Services defined, use Configure Services to add services

1. tools フォルダをクライアントコンピュータの任意のフォルダにコピーします。



tools フォルダは、カスタマーページにある Elysium License Server リリース情報ページで、"インストーラーおよび関連ツール" として公開しています。

2. コピーした tools フォルダの中にある "lmttools.exe" を実行します。"LMTTOOLS by Flexera" ウィンドウが開きます。
3. [Borrowing] タブを選択します。(画像内の [1])
4. "Vendor Name" に "Elysium" と入力します。(画像内の [2])
5. "Return Date" にライセンスを返却する日付を入力します。(画像内の [2])



- "Return Date" の "mmm" には返却予定月を表す英単語の最初の 3 文字を入力してください。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
mmm	jan	feb	mar	apr	may	jun
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
mmm	jul	aug	sep	oct	nov	dec

- ライセンスを持ち出すことができる最長期間は30日間です。

6. 返却予定時間を指定する場合は、"Return Time" に返却する時間を 24時間表記で入力します。(画像内の [2])

- 2025 年 1 月 30 日 15 時 00 分に返却する場合の入力例

- Return Date: 30-jan-2025
- Return Time: 15:00



"Return Time"を設定しない場合、返却日当日の 23 時 59 分にライセンスが返却されます。



設定した返却日時より前にライセンスを返却することはできません。ライセンスの持ち出しに関して問題が起きた場合の影響を最小限に抑えるため、可能な限り短い持ち出し期間を設定するようにしてください。

7. 設定が完了したら [Set Borrow Expiration] をクリックします。(画像内の [3])
8. 持ち出しを行うライセンスを、実際に使用することにより指定します。(画像内の [4])
  - a. エリジオン製品を起動し、持ち出したいライセンスを使用する処理を実行します。
9. [List Currently Borrowed Features] をクリックすると、持ち出し対象になっているライセンスのリストが表示されます。持ち出したいライセンスがリストに記載されていることを確認します。(画像内の [5])
10. [Don't Borrow Anymore Today] をクリックして持ち出し対象の受付を終了します。(画像内の [6])



"LMTTOOLS by Flexera" ウィンドウを閉じて持ち出し対象の受付は終了しません。持ち出したいライセンスの指定が終了したら、必ず [Don't Borrow Anymore Today] をクリックしてください。

以上でライセンスの持ち出しは完了です。持ち出したライセンスを利用する際に、クライアントコンピュータ上で設定を変更する必要はありません。また、追加でライセンスを持ち出したい場合は、再度ライセンスの持ち出し手順をはじめから実行してください。

## 4.2. 持ち出したライセンスのクリーンアップ

持ち出したライセンスは、返却期限が過ぎると自動的に無効化されます。ただし、ライセンスの情報はクライアントコンピュータ上に残ります。

このような場合に、`purge` コマンドを使ってクライアントコンピュータ上の、返却期限が過ぎたライセンスの情報をクリーンアップできます。必要に応じて実行してください。



LMTTOOLS の [List Currently Borrowed Features] をクリックすることで、持ち出しているライセンスの情報を確認できます。

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. "4.1 手順 1" でコピーした `tools` フォルダーに移動します。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
lmutil lmborrow -purge
```

## 5. ライセンス事前割り当て機能

### 5.1. 概要

ライセンス事前割り当て機能とは、オプションファイルを利用して特定のユーザーやグループにライセンスを事前に割り当てることで、割り当て対象のユーザーだけがライセンスを利用できるようにするための機能です。同一ライセンスを複数保有している場合、グループ内で同時に利用できるライセンス数も制限できます。なお、事前割り当て済みのライセンスが利用されていない状態でも、ライセンスを割り当てられていないユーザーやグループはそのライセンスを利用できません。



オプションファイルは、ライセンスの使用を制御する様々な機能 (オプション) を追加するためのファイルです。オプションファイルに設定可能なオプションの内、本ドキュメントでは事前割り当て機能 (RESERVE) とログ出力機能 (DEBUGLOG) の設定方法について解説します。その他のオプションの設定方法は以下のパスにあるドキュメントを参照してください。

<ライセンスサーバーインストールフォルダー>\Documentation\fnp\_LicAdmin.pdf

事前割り当て機能は以下のようなカテゴリーを対象に設定できます。

<b>USER</b>	単一のユーザー
<b>GROUP</b>	一人以上のユーザーで構成されたグループ (メンバーはオプションファイルで定義)
<b>PROJECT</b>	一人以上のユーザーで構成されたグループ (メンバーは環境変数で定義)



その他のカテゴリーについては以下のパスにあるドキュメントを参照してください。ページ下部の "Specifying License Restrictions Using Type" に記載があります。

<ライセンスサーバーインストールフォルダー>\Documentation\fnp\_LicAdmin.pdf

#### 使用例

同一ライセンスを 4 つ保有している組織で、ライセンスをグループ A とグループ B に 2 つずつ事前に割り当てます。これにより各グループ内で同時に利用できるライセンス数を最大 2 つまでに制限し、一方のグループによるライセンスの占有を防ぐことができます。

### 5.2. 事前準備

ライセンス事前割り当て機能を利用するためには、対象となるカテゴリーに応じて以下の作業が必要です。

- 特定のユーザーを対象に割り当てる場合
  - [オプションファイルの作成](#)
- グループを対象に割り当てる場合
  - [オプションファイルの作成](#)
  - [グループの定義](#)
- プロジェクトを対象に割り当てる場合
  - [オプションファイルの作成](#)
  - [プロジェクトの定義](#)

### 5.2.1. オプションファイルの作成

オプションを設定するためのオプションファイルを作成します。Elysium ベンダーデーモンに対して既にオプションファイルを適用している場合には、この作業は必要ありません。



オプションファイルは 1 つのベンダーデーモンにつき 1 つのみ適用可能です。既にオプションファイルを適用している状態で追加のオプションを利用したい場合は、適用中のオプションファイルにオプションを書き加えてください。



以下のパスにオプションファイルのサンプルを用意しています。このサンプルを参考にオプションファイルを作成してください。

```
<ライセンスサーバーインストーラーパッケージ>\docs\sample\sample.opt
```

1. ライセンスサーバーデータフォルダー内にある以下のフォルダーを開きます。ライセンスサーバーデータフォルダーのパスは、[ライセンスサーバーの導入手順](#)の中で指定しています。

```
<ライセンスサーバーデータフォルダー>\licenses\elysium
```

2. フォルダー内に "elysium.opt" という名前のテキストファイルを作成します。



拡張子 ".txt" は削除してください。拡張子が表示されていない場合は、エクスプローラーの表示設定を変更して拡張子を表示してください。

### 5.2.2. グループの定義

グループを対象に事前割り当て機能を利用するには、グループ名とグループメンバーをオプションで定義する必要があります。

1. 5.2.1, “[オプションファイルの作成](#)” で作成したファイルまたは適用中のオプションファイルをテキストエディターで開きます。
2. 以下のフォーマットで GROUP オプションを追記します。

GROUP <グループ名<sup>\*1</sup>> <ユーザー 1<sup>\*2</sup>> <ユーザー 2<sup>\*2</sup>> <ユーザー 3<sup>\*2</sup>>



- \*1: <グループ名> には任意の文字列を設定してください。
- \*2: <ユーザー> にはグループメンバーがコンピューターにログインする際のユーザー名を設定してください。

記入例

GROUP GroupA User1 User2 User3 User4



GROUP オプションは大文字と小文字を区別します。

- ユーザー名は、当該ユーザーでコンピューターにログオンした上でコマンドプロンプトで以下のコマンドを実行することで確認できます。

```
echo %USERNAME%
```



- GROUP 行には最大 4,000 文字まで入力可能です。必要であればグループ名が同一の Group 行を複数作成することにより、4,000 文字の制限を超えてより多くのメンバーを含むグループを定義することもできます。
- グループメンバーなどを変更する場合は、GROUP 行を編集した後にライセンスファイルを再読み込みする必要があります。再読み込みの方法は [5.3, “設定手順”](#) を参照してください。

### 5.2.3. プロジェクトの定義

プロジェクトを対象に事前割り当て機能を利用するには、プロジェクト名を環境変数で定義する必要があります。複数のユーザーで環境変数に共通の値を設定することで、複数人でプロジェクトを構成することができます。

1. プロジェクトに参加する必要があるユーザーがアプリケーションを実行するコンピューターに、そのユーザー自身でログインします。
2. スタートメニューから [環境変数を編集] を選択します。"環境変数" ウィンドウが開きます。
3. "<ユーザー名> のユーザー環境変数" 内の [新規] をクリックします。"新しいユーザー変数" ウィンドウが開きます。
4. "変数名" に "LM\_PROJECT" と入力します。
5. "変数値" としてプロジェクト名を入力します。



プロジェクト名は任意の文字列で問題ありませんが、プロジェクトメンバーは全員同じ文字列を入力する必要があります。

6. [OK] をクリックします。



- ユーザーをプロジェクトメンバーから除外する場合には、当該ユーザーに対して

指定した環境変数を削除してください。

- ユーザーを他のプロジェクトに移動する場合には、当該ユーザーに対して指定した環境変数の値を変更してください。
- "LM\_PROJECT" はシステム環境変数に設定することも可能です。システム環境変数に設定した場合は、設定したコンピューター上でログインしているすべてのユーザーがプロジェクトメンバーになります。なお、システム環境変数を設定した後は設定したコンピューターを再起動する必要があります。

## 5.3. 設定手順

事前割り当て機能を設定するために、以下の手順でオプションファイルを編集し、ベンダーデーモンに適用してください。

1. 5.2.1, “オプションファイルの作成” で作成したファイルまたは適用中のオプションファイルをテキストエディターで開きます。
2. 以下を参考にしてオプションファイルに RESERVE オプションを追記します。
  - ユーザーを対象に行う場合

RESERVE <ライセンス数<sup>\*1</sup>> <フィーチャー名<sup>\*2</sup>> USER <ユーザー名<sup>\*3</sup>>



- \*1: <ライセンス数> には割り当てたいライセンス数を設定してください。
- \*2: <フィーチャー名> には割り当てたいライセンスのフィーチャー名を 1 つ設定してください。フィーチャー名は管理インターフェイスから確認できます。
- \*3: <ユーザー名> には割り当てたいユーザーのユーザー名を 1 人分入力してください。ユーザー名はコンピューターにログインする際のユーザー名と対応しています。

記入例

```
RESERVE 1 License_A USER UserA
```



- 複数人のユーザーそれぞれにライセンスフィーチャーを割り当てたい場合には、各ユーザーについて RESERVE 行を作成してください。
- 単一のユーザーに対して複数のライセンスフィーチャーを割り当てたい場合には、それぞれのライセンスフィーチャーについて RESERVE 行を作成してください。
- ユーザー名は、当該ユーザーでコンピューターにログオンした上で、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行することで確認できます。

```
echo %USERNAME%
```

- 。グループまたはプロジェクトを対象に行う場合

RESERVE <ライセンス数<sup>\*1</sup>> <フィーチャー名<sup>\*2</sup>> <カテゴリ<sup>\*3</sup>> <対象名<sup>\*4</sup>>



- \*1: <ライセンス数> には割り当てたいライセンス数を設定してください。
- \*2: <フィーチャー名> には割り当てたいライセンスのフィーチャー名を 1 つ設定してください。フィーチャー名は管理インターフェイスから確認できます。
- \*3: <カテゴリ> には割り当てる対象がグループの場合は GROUP、プロジェクトの場合は PROJECT を設定してください。
- \*4: <対象名> には 5.2.2, “グループの定義” で設定した <グループ名> もしくは 5.2.3, “プロジェクトの定義” で設定した “プロジェクト名” を 1 つ入力してください。

#### 記入例

RESERVE 2 License\_A GROUP GroupA

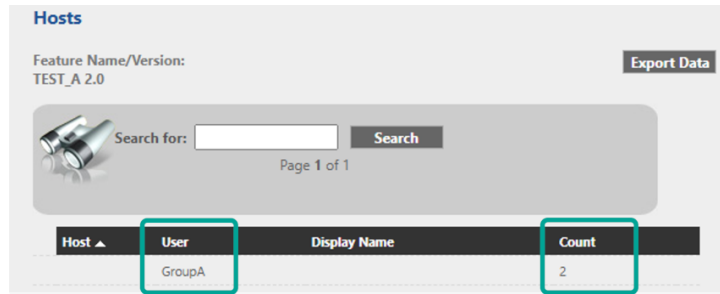
3. オプションファイルを保存します。
4. 管理インターフェイスにアクセスし、[Administration] タブを選択します。
5. [Vendor Daemon Configuration] ページを選択します。
6. ベンダーデーモン "elysium" をクリックします。ベンダーデーモンの設定画面が表示されます。
7. [Reread License Files] をクリックします。
8. 以下のパスにあるログファイルを確認します。"RESERVING <ライセンス数> <フィーチャー名> /<SIGN 文字列> licenses for <カテゴリ> <対象名>" が表示されていれば正しく設定できています。

<ライセンスサーバーデータフォルダー>\logs\elysium.log



ログ出力機能でログの出力先を指定している場合には、指定したパスに出力されているログを参照して事前割り当てが正しく設定できているかどうかを確認してください。

管理インターフェイスから、事前割り当てを設定したフィーチャーの右に表示されている [Hosts] をクリックすることで、割り当てられているライセンスの残数を確認できます。



列名	説明
User	<a href="#">5.3, “設定手順”</a> で設定した <ユーザー名> または <対象名>
Count	"User" に割り当てられているライセンスの残数

## 6. ログ出力機能

### 6.1. 概要

ログ出力機能とは、Elysium License Server の動作に関する詳細な情報を記録するための機能です。ライセンスサーバーのトラブルシューティングやライセンス使用状況の分析などを行う際に有効です。

この機能が出力するログは、デフォルトの状態では以下のパスに出力されています。ただし、設定を行うことによりこのログの出力先を変更することができます。

```
<ライセンスサーバーデータフォルダー>\logs\elysium.log
```

また、あらかじめ設定したファイルサイズを超えた場合に自動でロールオーバーを行うように設定することもできます。

本章では、出力先を変更するための手順とロールオーバーを設定するための手順について説明します。

### 6.2. ログの出力先を変更するための手順

以下の手順でライセンスにオプションファイルを適用することで、ログの出力先を変更できます。

1. オプションファイルを初めて利用する場合は、[5.2.1, “オプションファイルの作成”](#) の手順でオプションファイルを作成します。オプションファイルを既に適用済みの場合は、適用中のオプションファイルをテキストエディターで開きます。
2. 以下を参考にしてオプションファイルに DEBUGLOG オプションを設定します。フォーマットは以下の通りです。

```
DEBUGLOG +<出力先のパス>
```

記入例

```
DEBUGLOG +C:\ProgramData\Temp\Debug.log
```



<出力先のパス> にスペースが含まれる場合には、パス全体をダブルクォーテーションで囲ってください。

3. オプションファイルを保存します。
4. 管理インターフェイスにアクセスし、[Administration] タブを選択します。
5. [Vendor Daemon Configuration] ページを開きます。
6. ベンダーデーモン "elysium" をクリックします。ベンダーデーモンの設定画面が表示されます。
7. [Reread License Files] をクリックします。

- 手順 2 で設定した出力先のパスを確認します。手順 2 で設定したファイル名のログが出力されていたら正しく設定できています。

## 6.3. ログのロールオーバー

ログのロールオーバーとは、ログのファイルサイズがあらかじめ設定した値を超えた際にそれまで書かれていた内容を自動的に別の場所に保存し、新しい状態からログを書き始める機能です。この機能を利用することで、ログファイルの肥大化を防ぐことができます。

### 6.3.1. 動作の説明

- 設定したファイルサイズを超えたかどうかの判定は毎日深夜 0 時頃に行われます。
- 設定したファイルサイズを超えたログは、ライセンスサーバーインストールフォルダーの直下にアーカイブされます。アーカイブ後のファイル名のフォーマットは以下の通りです。

```
<Vendor daemon name>_<Hostname>_<mm-dd-yyyy>_T<Hmss>.log
```

ファイル名の例

```
elysium_Computer1_02-14-2025_T000007.log
```



Elysium License Server サービスの実行ユーザーがライセンスサーバーインストールフォルダーに対して書き込み権限を持たない場合、ロールオーバーは正しく動作しません。

### 6.3.2. 設定手順

この節では、オプションファイルを編集してログのロールオーバーを有効にする手順を説明します。

- 適用中のオプションファイルをテキストエディターで開きます。
- 以下のフォーマットに従い、ログ出力先を設定している行にロールオーバーに関するオプションを追記します。

```
AUTO_ROLLOVER <ファイルサイズ上限><単位>
```



単位は KB/MB/GB の中から選択してください。

記入例

```
DEBUGLOG +C:\ProgramData\Temp\Debug.log AUTO_ROLLOVER 100MB
```

- オプションファイルを保存します。
- [6.2, “ログの出力先を変更するための手順”](#)と同様の手順でオプションファイルをベンダーデーモ

ンに適用します。ログに "DEBUGLOG AUTO\_ROLLOVER is enabled with rollover size of <ファイルサイズ> bytes" と表示されていれば正しく設定できています。



<ファイルサイズ> には手順 2 で設定した <ファイルサイズ上限><単位> をバイトに換算した数字が表示されます。

## 6.4. ログの内容

ログにはライセンスサーバーの処理に関する詳細な情報が出力されます。この節ではログに頻繁に記録される内容のうち、ログを読み解く上で鍵となるものについて説明します。

- **OUT:** "<フィーチャー名>" <ユーザー名>@<コンピューター名>

ライセンスを使用した際に出力されます。

出力例

```
13:42:40 (elysium) OUT: "License_A" TestUser@TestMachine1
```



以下のケースでは、"OUT" で始まる内容がログに記録されても、管理インターフェイスに表示されている "In Use" の値 (使用中のライセンス数) は変わりません。

- [ライセンス事前割り当て機能](#)によって割り当てられているライセンスを使用した場合
- 同一アプリケーションを構成する複数のプロセスがライセンスを共有した場合

- **IN:** "<フィーチャー名>" <ユーザー名>@<コンピューター名>

ライセンスの使用を終了した際に出力されます。

出力例

```
13:45:40 (elysium) IN: "License_A" TestUser@TestMachine1
```



以下のケースでは "IN" で始まる内容がログに記録されても、管理インターフェイスに表示されている "In Use" の値 (使用中のライセンス数) は変わりません。

- [ライセンス事前割り当て機能](#)によって割り当てられているライセンスを使用した場合
- 同一アプリケーションを構成する複数のプロセスがライセンスを共有した場合

- **TIMESTAMP** <月>/<日>/<年>

6 時間 5 分おきに年月日が出力されます。

出力例

```
13:50:45 (elysium) TIMESTAMP 1/30/2025
```

#### • **hostid**

文脈によって、ライセンスファイルに含まれている hostid を意味している場合と、ライセンスサーバーコンピューターの hostid を意味している場合があります。

- 。ライセンスファイルに含まれている hostid は、ライセンス申請時に提出した hostid と同じです。
- 。ライセンスサーバーコンピューターの hostid は、ライセンスサーバーコンピューターの MAC アドレスと同じです。



これらの hostid が一致しない場合、Elysium ベンダーデーモンは動作しません。

出力例

```
13:45:55 (elysium) (@elysium-SL0G@) HostID node-locked in license file: 1a2b3c4d5e6f
13:45:55 (elysium) (@elysium-SL0G@) HostID of the License Server: "1a2b3c4d5e6f"
```

ログに記載されている内容の詳細は以下のパスにあるドキュメントの "Chapter 22 Debug Log File" をご参照ください。

```
<ライセンスサーバーインストールフォルダー>\Documentation\fnp_LicAdmin.pdf
```

ライセンスに関するトラブルが発生した場合は、ログファイルを添付してエリジオンもしくは購入元までお問い合わせください。

## 7. トラブルシューティング

エリジオン製品の利用中にライセンスに関するエラーが発生した場合は、エラーが発生したコンピュータ上で Web ブラウザーから Elysium License Server の管理インターフェイスにアクセスし、[Concurrent] ページを確認してください。

[Concurrent] ページを確認するまでの手順を実施する過程で起きる事象および [Concurrent] ページに表示される内容から、エラーの原因を切り分けることが可能です。

管理インターフェイスの URL は以下のとおりです。

```
http://<ライセンスサーバーコンピュータ名>:<ポート番号>/
```

例: <http://Computer1:8090/>

### 7.1. 管理インターフェイスにアクセスできない場合

管理インターフェイスにアクセスできない場合、以下の 4 点について確認してください。

#### 1) ライセンスサーバーが起動していない可能性

1. ライセンスサーバーコンピュータ上でサービス "Elysium License Server" が実行中になっているか確認します。
2. 実行中ではない場合は、"Elysium License Server" を右クリックして、[開始] を選択します。

#### 2) ライセンスサーバーコンピュータとクライアントコンピュータの間に通信ができていない可能性

1. クライアントコンピュータ上で以下のコマンドを実行して、ライセンスサーバーコンピュータとクライアントコンピュータが通信できているか確認してください。

```
ping <ライセンスサーバーコンピュータの IPアドレス>
```

2. 応答がない場合は、ライセンスサーバーコンピュータおよびクライアントコンピュータのネットワーク設定を見直してください。

#### 3) ライセンスサーバーコンピュータのホスト名が正しく名前解決できていない可能性

- 以下の手順を実施して、名前解決ができていないか確認してください。

1. ライセンスサーバーコンピュータ上でコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
ipconfig
```

2. クライアントコンピュータ上でコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
nslookup <ライセンスサーバーのホスト名>
```

- 手順 1 と手順 2 で表示された IP アドレスを確認します。  
IP アドレスが一致していれば、正しく名前解決されています。



名前解決ができていない場合は、エリジオン製品でライセンスファイルを指定する際に、以下の形式で情報を入力してください。

```
<ポート番号>@<ライセンスサーバーコンピュータの IPアドレス>
```

#### 4) Web ブラウザーと管理インターフェイスの間の通信がファイアウォールによってブロックされている可能性

- 以下のポートについて、利用中のファイアウォールで通信を許可してください。
  - Web ブラウザーと管理インターフェイスとの通信に利用するポート

用途	Web ブラウザー経由で管理インターフェイスにアクセスするために使用
プロトコル	TCP
ポート番号	2.2, “導入手順” の手順 8 で "ライセンスサーバー管理インターフェイス" に設定した番号
方向	Web ブラウザーから管理インターフェイスへの通信

## 7.2. 管理インターフェイスにはアクセスできるものの [Concurrent] ページにライセンスの一覧が表示されない場合

管理インターフェイスにはアクセスできるものの [Concurrent] ページにライセンスの一覧が表示されない場合、ベンダーデーモンが起動していない可能性があります。

以下の手順でベンダーデーモンを起動してください。

- 管理インターフェイスの [Administration] タブを選択します。
- [Vendor Daemon Configuration] ページを開きます。
- ベンダーデーモン "elysium" を選択します。
- Vendor Daemon Actions の下にある [Start] をクリックします。

## 7.3. 管理インターフェイスの **[Concurrent]** ページにライセンスの一覧が表示されているものの、実行したい処理に必要なライセンスが表示されていない場合

管理インターフェイスの [Concurrent] ページにライセンスの一覧が表示されているものの、実行したい処理に必要なライセンスが表示されていない場合、適切なライセンスが登録されていない可能性があります。

エリジオンまたは購入元までお問い合わせください。



### ■ 3D-SUITE を使用している場合

"3D-SUITE\_Requirement\_ja.pdf" を参照し、必要なライセンスフィーチャー (製品コード) を確認してください。

### ■ InfiPoints を使用している場合

代表的なライセンスフィーチャーは以下のとおりです。

- IFP\_APP\_INFIPPOINTS: 本体
- IFP\_APP\_OPT\_VR: VR オプション
- IFP\_CAD2ENF\_XXS: CAD 入力オプション  
XX は CAD 名など。例: IGES、STEP など
- IFP\_ENF2CAD\_XXS: CAD 出力オプション  
XX は CAD 名など。例: IGES、STEP など

上記以外のフィーチャーについては、エリジオンまたは購入元までお問い合わせください。

### ■ 上記以外の製品を使用している場合

エリジオンまたは購入元までお問い合わせください。

## 7.4. **[Concurrent]** ページに必要なライセンスが表示されているにもかかわらずライセンスを使用できない場合

[Concurrent] ページに必要なライセンスが表示されているにもかかわらずライセンスを使用できない場合、ライセンス数が不足している可能性があります。

1. 使用したいライセンスの In Use (Available) の値を確認します。



In Use が使用中のライセンス数を表しており、Available が登録されているライセンスの総数を表しています。ライセンス使用状況の確認については、[3.2, “ライセンス使用状況の確認”](#)を参照してください。

これらに同じ値が表示されている場合、ライセンスがすべて利用中であるためにライセンスエラー

が発生しています。

2. [Hosts] をクリックして、ライセンスを利用しているユーザーを確認します。  
ライセンスの利用を終了したはずのユーザーがライセンスを利用し続けている場合は、ライセンスサーバーコンピュータ上のサービス "Elysium License Server" および該当するクライアントコンピュータを再起動してください。



■ **3D-SUITE** を使用している場合

"3D-SUITE\_Requirement\_ja.pdf" を参照し、必要なライセンスフィーチャー (製品コード) を確認してください。

■ **InfiPoints** を使用している場合

代表的なライセンスフィーチャーは以下のとおりです。

- IFP\_APP\_INFIPOINTS: 本体
- IFP\_APP\_OPT\_VR: VR オプション
- IFP\_CAD2ENF\_XXS: CAD 入力オプション  
XX は CAD 名など。例: IGES、STEP など
- IFP\_ENF2CAD\_XXS: CAD 出力オプション  
XX は CAD 名など。例: IGES、STEP など

上記以外のフィーチャーについては、エリジオンまたは購入元までお問い合わせください。

■ 上記以外の製品を使用している場合

エリジオンまたは購入元までお問い合わせください。

## 7.5. [Concurrent] ページに表示されている内容に問題がない場合

ファイアウォールがライセンスサーバーへの通信をブロックしている可能性があります。

1. 以下の 2 つのポートについて、利用中のファイアウォールで通信を許可します。
  - 。ライセンスサーバーとの通信に利用するポート

用途	クライアントがライセンスサーバーに接続する際に使用
プロトコル	TCP
ポート番号	2.2, “導入手順” の手順 8 で "Elysium License Server" に設定した番号
方向	クライアントからライセンスサーバーへの通信

- 。 Vendor Daemon との通信に利用するポート

用途	ライセンスを取得する際にクライアントがベンダーデーモンに接続するために使用
プロトコル	TCP
ポート番号	デフォルトでは動的 (起動時に空きポートを自動選択)
方向	クライアントからライセンスサーバーへの通信



ベンダーデーモンとの通信は、利用しているファイアウォールの方法に従って許可してください。

固定のポート番号で許可する場合は、以下の手順でベンダーデーモンのポート番号を固定できます。

1. 管理インターフェイスの [Vendor Daemon Configuration] ページで、"Vendor Daemon Port:" の "Use this port" をオンにし、任意のポート番号を入力します。

#### ■ 3D-SUITE を使用している場合

"3D-SUITE\_Requirement\_ja.pdf" を参照し、必要なライセンスフィーチャー (製品コード) を確認してください。

#### ■ InfiPoints を使用している場合

代表的なライセンスフィーチャーは以下のとおりです。

- IFP\_APP\_INFIPPOINTS: 本体
- IFP\_APP\_OPT\_VR: VR オプション
- IFP\_CAD2ENF\_XXS: CAD 入力オプション  
XX は CAD 名など。例: IGES、STEP など
- IFP\_ENF2CAD\_XXS: CAD 出力オプション  
XX は CAD 名など。例: IGES、STEP など

上記以外のフィーチャーについては、エリジオンまたは購入元までお問い合わせください。

#### ■ 上記以外の製品を使用している場合

エリジオンまたは購入元までお問い合わせください。



## 8. FAQ

この章では、Elysium License Server に関するよくある質問とその回答をまとめています。ご不明な点がある場合は、まずこちらの内容をご確認ください。

**Q1. サービス "Elysium License Server" が起動しているにもかかわらず、ライセンスが掴めない。**

A1. Elysium ベンダーデーモンが停止している可能性があります。

以下の手順で Elysium ベンダーデーモンを起動してください。

1. 管理インターフェイスにアクセスします。
2. [Administration] タブから管理者としてログインします。
3. [Vendor Daemon Configuration] ページを選択します。
4. "elysium" を選択します。
5. Vendor Daemon Actions の下にある "Start" をクリックします。

**Q2. Elysium ベンダーデーモンが意図せず停止していることが頻繁にあります。**

A2. ライセンスサーバーコンピューターがスリープ状態に移行すると、ベンダーデーモンは正常に動作しなくなります。

スリープ機能が有効になっている場合には、電源設定を確認してスリープ機能を無効化してください。

**Q3. Elysium License Server を仮想環境で使用することは可能ですか？**

A3. 可能です。ただし、ライセンスを有効に保つためには MAC アドレスが変更されないように運用する必要があります。

何らかの要因でライセンスサーバーコンピューターの MAC アドレスが変更された場合、Elysium ベンダーデーモンは動作を停止します。

**Q4. 管理インターフェイスと通信を行うためのポート番号を変更する方法を教えてください。**

A4. 以下の方法で変更可能です。

1. 管理インターフェイスにアクセスします。
2. [Administration] タブを選択し、管理者としてログインします。
3. [Server Configuration] ページを選択します。
4. "Web Server Configuration" セクション内の "HTTP Port" に変更先のポート番号を指定します。
5. [Save] をクリックします。
6. サービス "Elysium License Server" を再起動します。

**Q5. アプリケーションがライセンスサーバーと通信を行うためのポート番号を変更する方法を教えてください。**

A5. 以下の方法で変更可能です。

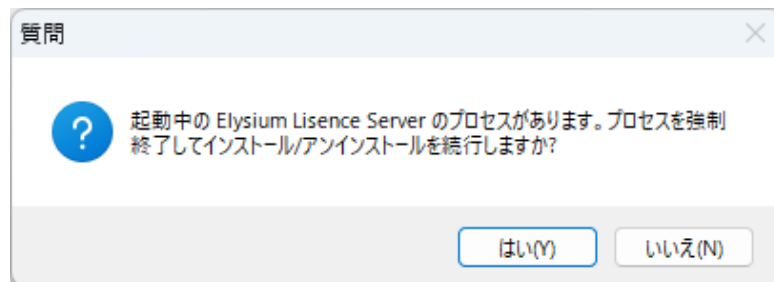
1. 管理インターフェイスにアクセスします。
2. [Administration] タブを選択し、管理者としてログインします。
3. [Server Configuration] ページを選択します。
4. "License Server Configuration" セクションにある "License Server Manager Port" の "Use this Port" をオンにし、テキストボックスに変更先のポート番号を指定します。
5. [Save] をクリックします。
6. サービス "Elysium License Server" を再起動します。

**Q6. Elysium License Server** を完全にアンインストールする方法を教えてください。

A6. 以下の方法でアンインストール可能です。

1. [設定] > [アプリ] から Elysium License Server をアンインストールします。

Elysium License Server を起動したままアンインストールを実行すると、以下のダイアログが表示されます。[はい] をクリックしてアンインストールを続行してください。



2. 2.2 導入手順 手順6 で指定したデータフォルダーの中身を削除します。

**Q7. 既に FlexNet Publisher License Server がインストールされているコンピューターに、Elysium License Server をインストールしても問題ありませんか？**

A7. 問題ありません。ただし、FlexNet Publisher が使用するポート番号と Elysium License Server が使用するポート番号が重複しないように設定してください。

ポート番号が重複すると、ライセンスサーバーが正常に動作しない可能性があります。

**Q8. Elysium License Server にエリジオン以外のベンダーから発行されたライセンスを登録することは可能ですか？また、エリジオンが発行したライセンスを他社から提供されている FlexNet Publisher License Server に登録することは可能ですか？**

A8. いずれもサポート対象外です。そのような操作を行った場合、ライセンスサーバーが正常に動作しなくなる可能性があります。

そのため、Elysium License Server にはエリジオンが発行したライセンスのみを登録してください。また、Elysium License Server 以外のライセンスサーバーに、エリジオンが発行したライセンスを登録しないでください。

**Q9. IPv6 環境のコンピューターをライセンスサーバーとして使用しても問題ありませんか？**

A9. 問題ありません。ただし、IPv6 環境では、MAC アドレスが hostid として利用できません。そ

のため、別の情報を `hostid` として申請する必要があります。

IPv6 環境のコンピューターをライセンスサーバーとして使用する場合は、エリジオンもしくは購入元までお問い合わせください。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。  
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの  
行為をすることは禁じられています。